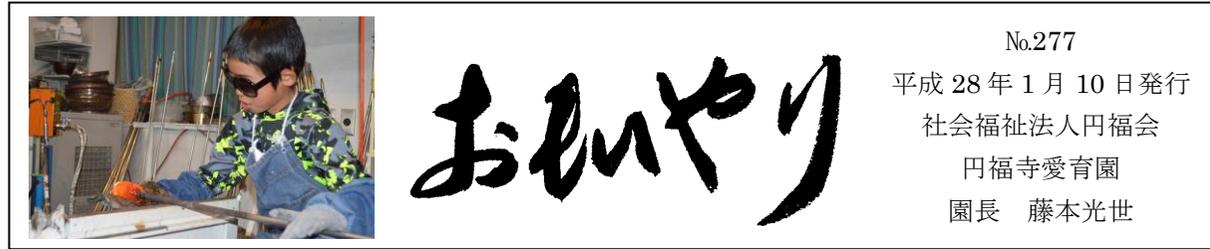


乗り物体験 県入所者支援事業で軽井沢ガラス工房へ行き、ガラス細工を楽しみました。



自動車免許取得

園長 藤本光世

愛育園には稲荷山養護学校高等部に通う高校 3 年生が 2 名います。この子たちに自動車免許を取らせたい。自動車免許取得は、彼らの生涯の自立のために必ず役立つはずです。車を運転できると、できないのでは生きていくうえで大きな差があります。

二人にとって自動車免許取得は、愛育園にいる間でないと取得はとても難しいです。愛育園にいる間は私たちが励ますことができます。教えることができます。背中を押してあげることができます。生活を保障して教習所に通わせることができます。しかも、入所中に免許を取得できれば、県からの補助が 100,000 円あります。全国社会福祉協議会の 120,000 円の助成もあります。

こんなにも好条件があるのに、養護学校高等部に通学するという理由で、免許取得は無理だろうと先入観で、免許が取れない、補助や助成を受けられないなどと言うことは、絶対に許されないと考えていました。

4 月に、二人に自動車免許を取りたいか聞いてみました。一人は、取りたいと強く言いました。もう一人は、言葉が読めても意味が分からないから…、と自信がなさそうでした。

私の頭には私が小学生のころ愛育園にいた S さんのことがありました。彼は、体が大きかったのですが、状況判断力と言うか理解力が悪かったのでしょうか。ある時、夜のおまじりのあとの本堂で、おっちゃんがみんなの前で彼を座らせて叱ったことがありました。最初は静かに聞いていたのですが、今でいうと切れてしまったのでしょうか。突然おっちゃんにはむかったのです。おっちゃんは小さいし、彼は大きいし、大変なことになって、職員や大きな子が止めに入って収めました。そんな人でした。(私は小さかったので、子どもたちで「おっちゃんとお S さんごっこ」と題して、本堂の出来事を再現して遊んだことを覚えています。(笑)) この人がなんと 20 回も試験を受けて免許を取ったのです。そしてタクシー運転手になりました。それを母から何度も聞いていました。だから、時間をかけて頑張れば、二人も必ず自動車免許を取得できると考えていました。

長野高校勤務時の教え子で長野自動車学校社長の毛涯克洋氏と、前年の自動車学校関係者の講演の時に再会して旧交を温めていました。彼に聞いてみよう。きっと力になってくれるだろう。そう思ってさっそく電話しました。彼は「学科試験が課題ですね。教習所で使う学科試験用の教則本を送ってあげましょう。」そう答えてくれて、翌日には教則本が二冊届きました。なんと素早い対応な

のでしょう。なんとありがたいのでしょうか。本当にうれしく思いました。

7 月から二人の勉強が始まりました。職員がついて 12 月まで半年間勉強しました。仮免の試験の問題では 50 点満点中 47 点程度は取れるようになりました。自動車免許が取れるかもしれない。勉強も熱が入りました。

自動車教習所に通うには学校の許可が必要です。すでに入校して仮免試験まで進んでいる子もいます。彼らはきっと時間がかかる。早く通わせてやりたい。職員に聞くと、学校からいい返事がもらえないと言います。なんとかしなければ、その一心で校長先生にお願いに行きました。

就職が決まらなると許可できません。これが、学校のルールでした。養護学校の児童は、実習を重ねたうえで特別枠採用になるので就職の決定が遅いのです。二人とも、会社はほぼ決定していましたが、内定通知は来ていません。1 月になると言います。それでは、免許取得ができないかもしれない。彼らは教習所で普通科高校の生徒より時間がかかる可能性がある。そんな心配があつて、もう一度お願いに行きました。本人が関与しない様々な理由で入校が遅れるのは、そうでなくても時間がかかる児童に、普通科高校生徒に比して差別ではないか。理解に時間がかかる児童にこそ手をかけて平等なのではないか。そこまで言いました。養護学校からは携帯電話（スマホ）を持たせて使い方を教え、一人暮らしの仕方（食事のつくり方、お金の管理等）を教えるのが先ではないかと言われました。楽しいことだけをさせるのはどうかとも言われました。しかし、少なくとも交換条件ではありません。免許取得は自立のためであり、楽しむためではありません。携帯の使い方等とは自立のためのレベルが違います。携帯電話の問題は使い方にあるのではなくて使う人の心にあります。私たちは心を育てています。そう言ってもなかなか理解していただけませんでした。大きな山になりました。必死でした。

しばらくして、校長先生と高等部部長が当園にお見えになりました。校長先生からお話がありました。さまざまな心配を話されてから、「就職は決まったと同じですから、私の責任で、ルールを変えることなく教習所入校を認めます。」と話されました。ご英断に心より感謝しました。免許取得後は学校のルールに従うことはもちろんです。彼らが免許取得すれば、信州大学工学部合格に匹敵する大きな出来事であり、稲荷山養護学校に通う児童にとって、光明と勇気になるでしょう。後に続く子どもたちはきっと毎日の生活を「夢」の実現のために頑張ってくれるでしょう。

平成 27 年を振り返って

副園長 青谷 幸治

新年明けましておめでとうございます。本年も愛育園の児童が自信をもって生き生きと生活できるよう職員一同、養育に勤めていきたいと思ひます。

平成 27 年もあっという間に終わりました。子どもたちの成長を通して業務に携わり充実していたからこそ短く感じました。昨年は高校 3 年生が信州大学工学部に推薦で合格しました。これが一番大きく取り上げられました。この高校生の努力は立派でしたし誇りに思ひます。しかしそれだけではありません。子どもたちを見ると身近な目標から将来の大きな夢に向かって一人一人が努力し

たことを忘れてはいけません。高校受験を控えて冬休みの帰省を取りやめた子がいました。マラソンに全身全霊を傾けた小学生がいました。一日も学校を休まず皆勤を目指す高校生がいました。一つ一つの目標が子どもたちにとって大きな壁であり、昨年はそれを職員とともに乗り越えて自信に満ちたしっかりとした顔つきになってきました。自分の境遇を知り、認め、乗り越えていくことこそが自立につながっています。行事においては職員ではなく中高生が中心となり取り組むことができてきました。そして職員とともに感動や達成感を共有することができました。今では愛育園の職員を目の敵にし問題行動を起こす児童は一人もいません。自分のために何をしなければいけないのか、人のために自分ができることは何なのかを考え実践することができています。特に中高生は愛育園を出た時のイメージをさせながら今何をすべきかを考えられるようになってきました。愛育園は児童の自立を第一に考える場所です。今年も昨年に引き続き子ども一人一人の目標や夢をより深めながら普段の生活から立派な人になるよう養育していきたいと思えます。まずは高校受験を控えた2名の中学生の学習環境を作り、社会に出る5名の高校3年生の自立の準備に力を入れていきたいと思っています。

本年も子どもたちのためにご支援、ご協力よろしく申し上げます。

乗り物体験

保育士 富沢正樹

12月12日、園行事で乗り物体験を行ないました。今年の乗り物体験は、「新幹線」に乗って軽井沢まで行きました。電車やバスに乗る経験は、これまでの乗り物体験や普段の生活でも経験がありましたが、新幹線に乗った事のある経験がある子は、ほとんどいませんので、今年の乗り物体験の内容を伝えると、子ども達は大喜びしていました。とりわけ男の子たちには、電車が大好きな子が多くいまして、毎年この乗り物体験行事を楽しみにしているのですが、まさか新幹線に乗れると思っていなかったのでしょうか、内容を聞いた時には大はしゃぎとなりました。

また、せっかく軽井沢に行くのだからと、ソーセージ作りや吹きガラスの体験も内容に加えたのですが、サンプルのガラスコップを見せると、今度は女の子たちが大喜び。みんな、前日からワクワクしていました。



迎えた当日、長野駅の新幹線乗り場着き、間近で「北陸新幹線かがやき」を見ると、子ども達は大喜びしていました。一緒に写真を撮ったり、細かい所まで目を凝らして見たり、とても嬉しそうでした。嬉しくて興奮しすぎて、周りの人に迷惑をかけたりしないか少し心配しましたが、車内に乗り込むと、落ち着いて席に座り、話し声は抑え気味にしている子ども達の姿があり、冷



静に周りの状況を見て行動をとれる子ども達にとっても成長を感じました。

軽井沢に着くと、ソーセージ作りを行なったが、吹きガラスなどのガラス細工を行ないましたが、吹きガラスは一見難しそう見えるので、消極的な子はどうか？とも思ったのですが、挑戦する気持ちの方が強く、普段なら「僕はいいや」と言う所を、積極的に、そして真剣な顔つきで取り組んでいました。

帰る頃には、充実した一日をそれぞれに振り返り、「楽しかったなあ」「一日終わってほしくないなあ」と感想を話していました。子ども達にとって、普段の生活で目標を持って頑張れる。その励みになるような行事になってくれたら嬉しく思います。来年もそんな乗り物体験にできるように計画していきたいと思っています。

乗り物体験 保育士 近藤 典雄



12月12日、待ちに待った乗り物体験の当日を迎えました。今年の乗り物体験はいつもの乗り物体験とは違い新幹線を使って、みんなで軽井沢に行く計画を立てました。子供たちは数日前まで行先を伝えず、ドキドキしながら今年の行先を待ちました。発表して新幹線に乗ることが分かるとみんな興奮し、喜んでいました。中には新幹線に乗ることが初めての子供もいてより楽しみが増えたようでした。

前日、児童に乗り物体験の詳細のスケジュールを配りソーセージ作りやガラス工房などに行くことを伝えました。そして明日の準備を入念にして当日を迎えます。

当日、みんな早くから目を覚まして、出発までうずうずしていました。普段の日課を少し早め、出発式をやって一班の出発です。篠ノ井駅に到着して電車に乗り長野駅に向かいます。電車の中でも子供たちは先生の話をよく聞いてマナーよく乗っていました。長野駅に着いて新幹線のホームで新幹線をバックにみんなで写真を撮ったりしました。新幹線に乗ってからも子供たちは楽しそうに乗っていました。そんな新幹線もあっという間に軽井沢駅に到着です。

到着してまず始めに向かったのがソーセージ作りです。始めに説明を受けてソーセージ作り開始です。生地をこねて、機械に入れてソーセージの形になっていくと、みんな嬉しそうでした。幼児

さんから小学生まで真剣でとても楽しそうでした。

次にガラス工房に行きグラスや写真立て、ローソクなどを作る体験をしました。グラス作りではガラス工房の職人さんが一人一人ついていただきました熱で溶けているガラスに息を吹き込んだり形を整えるために濡れた板や新聞紙を当てたり。それぞれ思い思いのグラスが出来上がりました。写真立てやローソク作りもみんなよくできていました。



そのあとはホテルで食事を取ったり駅前で買い物をしたりとあっという間に帰りの電車の時間になってしまいました。

今回の乗り物体験はいつもと違い乗り物だけでなくさまざまな体験をすることが出来て子供たちには貴重な思い出になったと思います。なにより子供たちのあの楽しそうな笑顔を見ると今回の乗り物体験も大成功したのではないかと思います。



乗り物体験 児童感想

初めて E7 系の新幹線に乗れました。乗り物体験で新幹線に乗れる事を聞いた時は、「乗り心地はどうか?」「グランクラスってどうなっているんだろう?」「トイレの構造は?」と心が踊りました。

当日、いよいよ車内に乗り込むと色々な所が気になって見ていたら、瞬く間に軽井沢についてしまいました。

吹きガラスでは、勢い余って息を吹き込み過ぎてガラスを膨らませ過ぎてしまいました。ですが、サポートしてくれた従業員の方が、修正してくれました。その技術に感動してしまいました。

吹きガラスの工程には興味があったのですが、直に見る事ができて良かったです。(中略)

今年度で、卒園となる私にとって、とても良い思い出となりました。計画してくれた先生方に感謝したいと思います。あ



りがとうございました。(高 3 N.M)



はじめて新幹線にのりました。写真で見るとよりもでかくておどろきました。ソーセージを作ったり、コップを作ったり、おみやげも買いました。コップが上手にできて、とてもうれしかったです。楽しい事がたくさんあって、また行きたいです。(小 2 Y.Y)

愛育園に来てから初めて参加した行事でした。青谷先生から乗り物体験の話聞いた時からすごく楽しみにしていたので、今回参加出来て嬉しかったです。今

回は新幹線にのり軽井沢まで行ってきました。軽井沢ではソーセージを作りました。初めての体験なので、すごく楽しみだったし、うまくできるかなと思い緊張しました。作り始めた時はお肉が冷たく大変だったけど、ソーセージが出来ていくにつれ、とっても楽しかったです。出来上がったばかりのソーセージを試食させてもらいましたが、とってもおいしかったです。お昼はおしゃれな感じのホテルでバイキングでした。どれもおいしかったので食べ過ぎてしまいました。その次はガラス工房へ行きました。吹きガラスやフォトフレームを作りました。コップ作りではコップの形や色や模様を決めてから作り始めました。力の加減が難しく何回もやり直しをしましたが、最後はうまく仕上がったので良かったです。吹きガラス体験が終わったら軽井沢駅へ向かいました。駅に着くとイルミネーションがとてもきれいでした。普段中々出来ない体験ができとても嬉しかったし楽しかったです。すごく良い思い出になり良かったです。(高 1 K・K)



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

新幹線に乗りました。机もありました。新幹線に乗って楽しかったです。ソーセージ作りが楽しかったです。ソーセージを丸める所が楽しかったです。バイキングもおいしかったです。また今日から頑張ります。(小1 M・N)

クリスマスロビーコンサート

保育士 富沢正樹

12月23日、去年に続いて、クリスマス会を行ないました。去年は、冬の風物詩となりつつあるイルミネーションを園内でやっけてしまおうと、体育館を飾り付けて、子ども達に喜んでもらいました。今年はクリスマス会の前から、外の塀や木にイルミネーションを飾り付けていたので、それに加えて、園のロビーもイルミネーションで飾り付けて、職員から子ども達に歌のプレゼントをしようと企画しました。

職員は、子ども達に気付かれない様に、こっそり集まって歌の練習をして当日を迎えました。

内容を知らない子ども達はさぞびっくりするだろうと、真っ暗なロビーの特設ステージに立つと、子ども達がペンライトを振って迎えてくれました。職員の歌声に合わせて子ども達も体を揺らしたり、ペンライトを振って盛り上げてくれました。

私達職員の歌の発表が終わり、クリスマス会を閉じようとした時、今度は子ども達が歌のプレゼントしてくれました。突然の事過ぎて、何がどうなっているのかわかりませんでした。何曲も何曲も、小学生が歌ったり、中高生男子が歌ったり、中高生女子が歌ったり、最後は全員で歌ってくれました。完全なサプライズでした。

子ども達を喜ばせようと思っていたのが、逆に本当に素敵なプレゼントをもらってしまいました。

私達職員が、こっそり練習している裏で、子ども達もまた、青谷副園長先生の下、私達職員を「喜ばせ驚かせよう。」と練習してしてくれた事を後で聞き、子ども達の気持ちに胸が熱くなりました。自分の事だけでなく、相手の気持ちを大切にしてくれ事が本当に嬉しかったです。

これからも子ども達の為にできる限りやっけていこうと、改めて思ったクリスマス会となりました。

クリスマスロビーコンサート

副園長 青谷 幸治

今年のクリスマス会は、管理棟のロビーをステージに職員が準備してくれました。一年間、いろんな行事で子ども達が活躍したので、このクリスマス会だけは職員が中心になって取り組むことになりました。時間がない中、数日の間にロビーにたくさんのイルミネーションを飾り出し物の準備に職員は追われていました。しかし、それだけでは終わらないのが愛育園の行事です。

私は職員の準備には参加していなかったので、クリスマス会の4日前に職員が少ない(特にホーム長が不在)時間帯に子ども達全員を集めクリスマス会について話をしました。

「先生たちが皆のためにクリスマス会を準備している。みんなはどうする?」「先生に内緒で、こっちでも発表の準備をしよう」と高校生の呼びかけに全員が賛同しました。「先生のびっくりした顔を見たい」「うれしくて泣くんじゃないかな」とイメージを膨らましながら歌を歌う準備をしました。

いつも関わってもらっている先生方に感謝の意味をこめて、密かに準備を進めました。

(平成28年1月10日発行 月刊「円福」474号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

先生に見つからないように小学生、中高男子、中高女子に分かれ歌を合わせてきました。

本番当日、先生方は子どもたちのためにクリスマス会を盛り上げてくれました。発表が終わった瞬間、音楽が流れ観客席から子どもたちが5曲連続で歌い始めたのです。先生方はステージで唾然。なぜ子どもたちが歌っているのか?今日は誰のためのクリスマス会なのか?いつ練習していたのか?驚いた顔が印象的でした。子どもたちの歌声に感動しきりでした。5曲熱唱した子どもたちは、やりきった表情でした。先生方から感動のコメントをもらいサプライズが成功しました。

行事は時間があればできるものではありません。力がないとできないわけでもありません。大事なことは気持ちを一つにして、今できる限りの力を結集して作ること。これが今の愛育園の行事につながっています。たかだか歌であったとしても心がこもった歌であれば人は感動する。人に嘘はついてはいけませんが、内緒で準備し人を笑顔や感動にするサプライズは心を育てるためには重要なもの。そんなことを今回のクリスマス会の中で子どもたちに教えられたかなと思います。先生方、黙ってこそ子どもたちと打ち合わせして済みませんでした。

クリスマスプレゼント

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年もクリスマスの時期が近づいてくると子ども達から「サンタさん来るかな〜?」「今年はこれお願いしたい!!」という声がチラホラ聞こえてきました。サンタさんは頑張っている人やお利口さんの所に来るんだよ〜と子ども達に言う子ども達の行動もいつも以上にテキパキしており、サンタさんの力はすごい!と改めて感じたことや、子ども達のサンタさんにかかる思いの強さを感じる事が出来ました。サンタさんからお手紙が届き、欲しい物を一生懸命書く姿や、まだかな、まだかな〜と楽しみにしている姿を見ると、本当に可愛らしく感じました。

25日の朝には小学生は自分達で5時半には起きてスタンバイ。私の姿を見るなり、プレゼント開けていい〜?と楽しみにしている様子が声からでも伝わってきました。早速プレゼントを開けると、「やった〜!!」と満面の笑みを見せていた子ども達でした。その姿を見て私も一緒に嬉しい気持ちになりました。

イルミネーション

保育士 佐々木 弘観

12月に入ると街中が少しずつ夜の光で彩られ始め、クリスマスムード一色のなか愛育園でも凄



イルミネーションを作って子ども達をアツと驚かせたいという思いがあり、イルミネーション大作戦が始まりました。

日中、子ども達が学校へ行っている最中に職員総出で飾り付けをし、事務室の窓にはスノースプレーでサンタやアナ雪を描き、児童棟の木々や壁には総数 2000 個を超えるLED電球が飾り付けられました。

夕食後に子ども達を玄関に集め、愛育園の全ての電気を消し、真っ暗闇の中でイルミネーションの点灯式が行われました。カウントダウンと同時に 2000 個を超える電球が光り、真っ暗だった建物の周辺は、赤や緑、青に白、黄色にピンクなど色とりどりに光り輝き、子ども達からはワッと一斉に歓声が飛び交いました。



部活やアルバイトで夜遅く疲れて帰ってくる子ども達を笑顔にし、温かく迎えるイルミネーションの光は、子ども達はもちろん、職員までも元気を与えてくれます。

今年のイルミネーションは大成功！！来年はもっとパワーアップした作品をつくり、毎年子ども達がこの時期を楽しみにしてくれる様にしたいと思いました。

クリスマス窓アート

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織



園長先生から「愛育園にはクリスマスは来るかなあ～」の一言から始まった愛育園のクリスマス計画！！子ども達にクリスマスを思う存分楽しんで欲しい、ワクワクして欲しいと思い、どんな事をやったら良いかな～と考えてみました。先生方の案を参考にしながら、職員室の窓にホワイトスプレーで絵を描き子ども達を驚かせることにしました。そうと決まれば早速職員で手分けをして、型紙を作ったり、カッターでくり抜いたり、最後は窓に型紙をあててホワイトスプレーをかければ

完成です！！

窓を見て子ども達もビックリ！「すご～い！」「サンタさんがいる～！」「アナだあ！！」本当にたくさんの方が子ども達から聞かれ、また同じくらいの笑顔をたくさん見る事が出来ました♪

クリスマスクッキー作り

栄養士兼調理員 原 未華

12月13日にクリスマスクッキー作りをしました。食堂においてある大きなクリスマスツリーに飾るクッキーを作るということで、私自身も初めてなことなのでどうなるか楽しみでした。プレーン・ココア・抹茶の3つの生地を用意して、型を抜いてもらったり、あらかじめ焼いておいたクッキーを数種類のチョコペンや色鮮やかなアラザン等を使ってデコレーションをしました。

子ども達は、時間を忘れるくらい無我夢中になって飾り付けをしていました。その姿は真剣でもあり、楽しみながら取り組んでいて細かい作業も1つ1つ丁寧に仕上げていました。

クッキーを飾るときもクリスマスツリーのどこに飾ろうかと迷っている子の中にはいてツリーいっぱいたくさんの方のクッキーを飾ってくれました。クリスマスにふさわしい愛育園だけのツリーを見ることが出来ました。

また、子ども達が率先して動いてくれたので子どもたちのおかげで楽しい一時を過ごすことが出来てよかったです。

年末大掃除

保育士 近藤 典雄

平成27年もあとわずかになった12月の23日この日は園のみんなで年末の大掃除です。午前九時からスタートして一日かけて園内をきれいにしていきます。まず始めに各自の部屋をきれいにしていきます。自分たちが普段使っている部屋だけにみんな真剣に掃除をしていきます。大きな荷物を部屋の外に出して掃き掃除し、机の中や棚の中を整理して一年の汚れを落としていきます。

それぞれの部屋がきれいになると今度は共有のスペースを各分担に分かれて掃除をしていきます。それぞれの児童と職員が協力し合って普段の掃除ではなかなか手の届かないようなところまで掃除をしていきます。窓ふきやトイレ、風呂場など、みんなでやるとあっという間にきれいになっていきました。午後もし引き続き掃除をしますが、真剣に取り組んだかいがあつてかいつもよりも早く終わらせることが出来ました。

今年も一年生活をさせてもらった感謝の気持ちを込めてそれぞれが一生懸命取り組み園内はきれいになりました。これで清々しい気持ちで新年を迎えることが出来ると思います。



園内保育だより

明けまして おめでとうございます

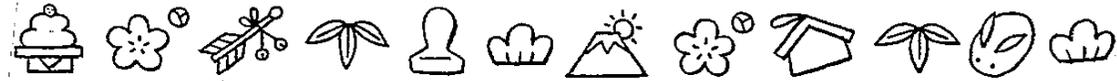
新しい年を迎え、また新たな気持ちで園内保育がスタートしました。今年も充実した毎日を送れるよう、色々なことに挑戦していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

☆ ねらい ☆

- 手洗い・うがいをしっかりして病気を予防する
- 日本のお正月の伝統を知り、お正月遊びを楽しむ
- 冬の自然に気付きながら、冬の遊びを楽しむ

☆ 行事 ☆

- 3学期始業式 ◦ 1月生まれ誕生会 ◦ そり遊び



* 年賀状作り *

今年も園長先生へ年賀状を出そう！とみんなで心を込めて作りました。印刷された猿のイラストを丁寧に塗り、まわりには好きな模様を描いて、仕上げに余白を絵の具で色付けしました。細かい部分を塗るため、今まで使ったことのない細い筆で真剣に塗り、園長先生へのメッセージを書いて完成！園長先生が喜んで下さる姿を想像しながら、お正月を迎える子どもたちです♡

* 2学期 終業式を行いました * ~ 12月25日(金) ~

この日を迎えるにあたり、子どもたちとおもちゃや部屋の掃除、お道具箱の整理をしました。2学期の間、毎日過ぐれ、沢山遊んだことを思い出しながら、一番小さな年少さんまで、気持ちを入れて一つ一つ丁寧に拭く姿には成長が感じられました。そして、終業式では園長先生、ホームの先生にお礼頂き、おまじりしたり、歌を歌ったりしました。また、子どもたちは「縄とびを頑張りました」「愛育園祭を頑張りました」など2学期を振り返って発表しました。3学期はどんな姿を見せてくれるのでしょうか。楽しみです♡



12月は...そう！クリスマスです♡今年も園内保育は、『楽しみに待つ』だけのクリスマスではなく、『楽しく迎える』クリスマスにしよう！ということで、園内保育のクリスマスは大忙しです。1/30に市販のクリスマスツリーを飾りあげ、キラキラ光る電飾に、テンションも上がります♡
12月に入ると、クリスマス制作です。最初に作るのは壁面です。折り紙をたくさん折って重ねると...クリスマスツリーのできあがり！靴下、サンタクロース、もみの帽子も折り、素敵な壁面ができました♡



お次は、クリスマスツリーです。今年は個性に自分のクリスマスツリーを作りました。ツリーの形を切るころから始まり、木の具を使い、はじき松、リボン結び、ミニミニ輪っかなど、結構、手がのびています。小さいけれど、およそ1週間かけて制作した自分だけのクリスマスツリー。1年中飾っておきたいくらいです♡

最後は、会場の談話室の飾りを作りました。今年も部屋中の輪っかや、天井から星や雪の結晶などのセビール飾り、いざやかな部屋を、お誕生会とクリスマス会が行なわれました♡

12月にお誕生日を迎えた、年少さんのRevlonの前の4さいのみんなと、好きな食べ物や、大きくなりたいもの(トッキョー)など、ちょっぴり眠りながら発表してくれました。

クリスマス会では、クリスマスソングを歌ったり、先生たちの劇を見てると...サンタさんとトナイスンが来てくれました!!よい子のみんなは、素敵なプレゼントをもらい、大喜び♡とても楽しい一日でした♡

